ヨーロッパの道徳の歴史　アウグストゥスからシャルルマーニュまで

詳細目次

第一章……2
第二章……15
第三章……30
第四章……40
第五章……58

・より詳細な目次です。その項目を読むには「……」の下の言葉を文字検索します。

第一章

道徳の自然史

道徳理論の原理的な区分……道徳の性質と基礎

間違った理論の持ち主を不道徳な人物とすることの必然性……この問題を取り扱う

功利主義学派

マンデヴィル

ホッブズとその追随者……これらの理論の中で

……マンデヴィルの見解は
神学的功利主義者
……ここまで私は現世的な
博愛の認識による学派の拡大
……人間の性質は他人の
そしてハートリーの観念の連合の学説による学派の拡大
……しかし、功利主義的
どこまで利己的なのか
……私が注釈に記した

功利主義学派に対する異議
人々の共通の言葉や感覚による異議
……このように帰納的理論
喜びを得るためだけに実践するなら、徳からは喜びを得られないことによる異議
……このような場合、求める

道徳をあらゆる幸福への手段から切り離すことによる異議……人間の性質の道徳的な部分
直観的道徳主義者は徳の効用を否定しない……直観的モラリストの推論は
徳と悪徳の度合いは、功利的な度合いやその逆には一致しない……一般に私たちが有徳と
功利主義的な原理による行動の帰結
遠隔的結果の学説の弱点……自分の人生を一貫して
秘かな罪……さて公的な行為の場合
想像の罪……もしこの質問者が
嬰児殺し

……さらに話を進めると、
動物への残虐行為
……しかし動物に対する残酷さ
このテーマに関する最近の功利主義の見解
……しかしこの考察から、
貞操
……その第一は貞操の
真実への愛
……第二の領域は思索的な
功利主義的な（神学的）制裁
神学的功利主義は「神の善」を無意味な言葉にする
……第一に、神の恣意的
来世の主張を論破する
……第二の同様に

自然宗教を論破する……第三の指摘は、
至高の卓越性はどこまで幸福をもたらすか……私は喜んで功利主義の
その犯罪性に比例しない悪徳がもたらす苦悩……また通常、悪事に
良心の報酬と罰……しかしこの苦痛
義務の性質……さて人が観念の
最高の人物が最も幸福なことは稀である……人間には幸福以外
（功利主義への）異議のまとめ……今、私が主張
功利主義の吸引力の理由……功利主義学派の影響力
道徳に適用される帰納的という言葉の曖昧さ

……ここで私は、道徳
直観学派
バトラー、アダム・スミス、カドワース、クラーク、ウォラストン、ハッチソン、ヘンリー・モア、リード、ヒューム、ケイムス卿の学説
……この単純な、しかし
美と徳の類似性
……この類推は私たちが
それぞれの違い
……こうしたことを考えるなら
人間の本性の高次部分と低次部分の区別の例証
……上記の推論に現れた
この区別の倫理的重要性
……この種類の区別は

いわゆる道徳的判断の多様性

道徳的判断の多様性は知的な原因によるものが多い—利息と堕胎……生得的な道徳的知覚の理論に対抗

自然な義務と実定法に基づく義務との区別……次に良心の直接の指示

古代の習慣が時代を経ることで神聖化される—女性がワインを飲むことについて……これと密接な関係が

観念の連合の混乱—征服者への憧憬……より深刻な異常

カルヴァン主義倫理学……道徳的逆説の

迫害

……この例では、はっきり

自由な探求への反感

……このように合理化

直感によって明らかにされるのは一般的な道徳原理だけである……私が想像するに
したがって、異なる時代の道徳的一致は、基準の一致ではなく、傾向の一致である……さてこの理論によれば
このことの博愛の歴史への応用……この事実の中に
これによる功利主義者の異議への反論……この点において私は
直感的なモラルは進歩しないものではない……このような主張には二つ
貞操観念の歴史のスケッチ……私が慈愛に関して
雑駁な反論への回答……これらの考察に別の
本質的ではないものの、社会の状況によって決まる徳の基準……ある時代には正当
高次の理念を低次の理念のために犠牲にすることが時折ある

……しかしこの時点で
このようなケースに一定のルールを見出すことの難しさは、功利主義者だけでなく、その反対者にも当てはまる
……このような問題に関して
徳と利益の関係のまとめ
……ここまで見てきたように功利主義
「自然な」という言葉の二つの意味
……自然な（＊ｎａｔｕｒａｌ
野蛮人の倫理観
……しかしこうした考察を
社会の一般的な状態と二つの道徳学派との関係
形而上学の学派との関係
……ここまでのページにおいて
ベーコン哲学へ―古代文明と近代文明の対比

……ベーコン（＊フランシス
各学派の実際の経過
……次に私たちは倫理

道徳的感覚の発展の順序
禁欲的、聖人的資質の減退
……社会の組織が高度に
より優しい徳の成長―想像力と博愛の関係
……一方、洗練された社会
冷酷で執念深い残酷さ
……しかし、ここで重要な
犯罪者に対する手ぬるい裁き
……苦しみの実感を
文明の各段階に適した道徳的熱意
……私たちはこの考え方

真実性の成長―産業的、政治的、哲学的に……文明とともに高まる
神学の影響が真実性の成長を遅らせた……三つの真実の精神
倹約家と投機家の性格……産業的生活の道徳的
先見力……第二に産業的な習慣は
敬虔さの減退……このような変化は文明が
女性の徳……男女の関係における
気候の影響……気候が公衆道徳に
大きな街の影響……このような徳の形は
晩婚の影響

アイルランドの農民の間で
文明の各段階は、いくつかの徳に特別に適している
先の考察から明らかなように
知的進歩と道徳的進歩の関係
いま述べたことが
ほとんどの人の道徳的水準は、私的判断よりも政治的判断において低い
政治的判断において
国民の悪徳
また奇妙な道徳的逆説
団体の資質
また徳と悪徳の両方
フランス人とイギリス人のタイプ
また国によって
徳のグループ
なんらかの徳が
基本的な徳
この最も重要な真理

すべての性格を一つのタイプに押し込めることはできない……ここまで私が述べて
道徳のタイプに関する結論……各個人の性格

第二章

異教徒の帝国

異教は道徳にほとんど影響を与えていなかった……古代文明の倫理的
ギリシャの懐疑論……ギリシャでは最も古い
ローマへの展開―哲学者たちの意見……ローマ共和国と帝国
ローマの宗教は決して道徳的な熱狂の源ではなかった……しかしローマの宗教は
贅沢の流入
占星術的運命論の普及……しかし、こうした習慣

……大プリニウスの指摘
真の道徳教師たる哲学者
……ゼノン（＊ＢＣ３３５
エピクロス主義とストイシズム
……異なるタイプの性格の表現
軍事的、愛国的な熱狂がローマにストイックなタイプの性格を生み出した
……しかしこのような問題
道徳教育において伝記を重視することによる素質の強化
……こうした考察から、ローマ人
エピクロス主義は決してローマの徳の学派にはならなかった
……こうした文言は古代
その破壊的な機能
……しかし安楽と
ストイシズム

その二つの本質的要素—無私の理想と、情緒を理性に服従させること……エピクロス主義の作用
第一は最も無欲な熱狂、愛国心によるもの……第一に、愛国的な
徳の四つの動機
……読者はおそらく前章
ストイシズム、徳と利益の完全な分離の最たる例
……前章でより詳細に論じた
ストア派は来世を軽視し、信じなかった
……またこれらの人々は
評判を犠牲にすることを教えた
……しかしローマのモラリスト
義務と徳の魅力を区別した
……またストア派の人々は徳の
第二の特徴、欲望の抑圧
……私が注目したストア派
意図された徳は最も評価され、自然な感情の満足である徳は最も魅力的である

私がここまで述べてきた……
例えばセネカは……
キケロは、ストア派……
実際、異教徒と……
しかし、理論的には……
実際、すべての徳は……
ストア派の主な目的……
この自制の哲学……
しかしストイシズムには……
憐憫の情に関するセネカの理論
感情の抑圧がもたらす悪しき結果
性格の硬さ
愛の矛盾
多くの著名なストア派の人生は非常に不完全なものだった
一般的な性格にストア哲学は不向きだった
人間の自然な徳とその意志の力に対する高い意識
神意の認識

公生活の習慣がストア派を静観主義から救った……こうした無限に
死への思索―ベーコンのストア派への反論……このような高い義務感
「慰め」の文学……アカデミアのクラントール
死は刑罰と捉えられていなかった……しかしキリスト教の宗教
異教徒の死の床……善良な人間が自分の
異教徒とキリスト教徒の死に対する概念の違い……ある論者たちは、古代の
自殺……古典的な死の概念
ストア学派の理想の壮大さ……自殺の理論はまさに
要約

……私は調査のこの段階
ローマ・ストア派の質素とローマ社会の贅沢の対比
……この倫理体系が

ローマに芽生えた、より優しく、よりコスモポリタンな精神

第一にギリシャ文明とローマ文明の融合によって―ギリシャ人の性格の優しさ
……それはギリシャ征服
哲学の批判とアレクサンドロスの征服によるギリシャのコスモポリタニズムによって
……ギリシャの精神は非常に
ローマにおけるギリシャの影響力の広がり
……したがってローマで
貴族の権力の消失もコスモポリタニズムを強化した
……ギリシャの知性と
植民地の拡大、多くの外国人のローマへの流入、旅行の楽しみの増加も同様に働いた
……こうした影響に加えて

ラテン系論者の中で最も著名な外国人たち……首都はさまざまな
大勢の解放奴隷
……これに符合する革命
ローマの立法者たちは、征服者の特権を被征服者に認めさせることによって帝国を強化しようとした
……共和政の時代から
ストイシズムはコスモポリタニズムを代表するのに十分な能力を備えていた
……パナティウスと
しかし、同じように時代の軟化の精神を代表することはできなかった
……しかしストア派は文明

折衷的モラリストの台頭
プルタルコスとセネカの比較
……プルタルコスのモラリスト
新しい精神がストア派に与えた影響

……ローマ人はいつの時代
ストイシズムが宗教的になった
……第一に、ストア派は
そして、より内省的に―自己点検の実践の歴史
……後期ストア派のもう一つ
マルクス・アウレリウスは後期ストア派を代表する人物である―その生涯と人物像
……プルタルコスが言う

それでも国民は非常に腐敗していた―腐敗の原因
共和制時代のすべて徳の退廃
……しかし、このように環境
皇帝制が風俗に与えた影響―皇帝たちの神格化
……ローマ帝国の原理
奴隷制の道徳的な結果―怠惰、やる気をなくさせるような雇用の増加
……奴隷制度がもたらした

そして官能性の増加……こうした影響のために
公的精神の衰退……こうした状況に置かれた
世界帝国は近代国家群において国民生活を支える政治的相互作用を妨げた。……このように帝国の首都で
農業への従事と農業的生活習慣の衰退の歴史……しかし帝国の道徳が
そして軍人の徳の衰退……軍人の生活において
剣闘士ショー――その起源と歴史……剣闘士競技は現代人
その劇場への影響……このような嗜好の
その魅力の正体……このような冷淡さ
その恐るべき行き過ぎ

……これに加えて単なる
その影響のローマ人の生活への浸透の仕方
……またこの魅力は
それをモラリストや歴史家がどう評価していたか
……円形闘技場の影響
他の領域での慈愛と矛盾しないそれへの情熱
……私はローマ人の生活の

ストイシズムが社会の腐敗に与えた影響

第一に、多くの優れた皇帝を育てたこと
……私の上記のスケッチ
第二に、最悪の皇帝の下で高貴な反対派を生み出したこと
……このような状況を
第三に、ローマ法を大きく発展させたこと
……ストア派が民衆道徳

ローマ法は自然の法則に従わなければならないというストア派の概念を採り入れた……ストア派と初期のローマストイシズムに由来する公平の原理
……ローマの偉大な法律家ローマ人と属州人の関係の変化
……これらの原理が実際家庭の法の変化
……道徳の年表において奴隷制度―ローマにおけるその三つの段階―奴隷の状態の見直し
……奴隷制度の分野では奴隷制度に関する哲学者たちの意見
……奴隷に対する慈愛奴隷のための法律
……このような影響の下で悩みの慰め手、若者の助言者、大衆の説教者としてのストア派
……ストア派の原理やストイシズムの分派である後期キニュコスの人々

これらの説教者……
ストア派の修辞家
当初からこの職業……
ティルスのマクシムス
プラトン主義者である……
ディオン・クリュソストム
ストア派のディオン……
修辞家の最高の記録者、アウルス・ゲッリウス―エルヴェシウスとの比較
ヘロデス・アッティコス……
ストイシズムの急速な衰微
ストア派の衰微……
東洋の宗教への情熱
部分的に修辞家たちの論争への反動だった神秘主義のため―現代との類似性
それは第一に、ストア派……

部分的にモラリストが感情を重視するようになったこと
……次に、神秘主義
また部分的に東洋の奴隷が流入し、アレクサンドリアの重要性が増したこと
……政治的、商業的な
しかし、その主因は信仰への自然な願望だった
……しかし、この運動の
プラトン派とピタゴラス派
……しかしプラトン派と
プルタルコスによる古代の信仰の擁護
……前者の中でプルタルコス
ティルスのマクシムスも同じ道を歩む
……プルタルコスがトラヤヌス
アプレイウス
……ティルスのマクシムスと
ギリシャとエジプトの精神の対比
……アプレイウスは「エジプト
ストア派の汎神論とエジプトの汎神論の違い

東洋の宗教の侵入……
ここまで述べてきた二つ……
奇跡と信仰への欲求……
プラトン倫理学は大部分……
ピタゴラスとプラトンの学派……
とりわけ道徳的な修養……

新プラトン主義

それは活動的な徳と批判精神を滅ぼす

ダイモーンの理論がストア派の自然主義に取って代わる

自殺に関する新しい理論

来世の信仰が強くなる

哲学と宗教の融合

章全体のまとめ

……私は今、本章で

第三章

ローマの改宗

異教徒の論者たちのキリスト教の道徳的重要性に対する明らかな無意識……コンスタンティヌスの即位以前

それは古代における宗教と道徳の分離の結果だった……人類史上最大の宗教的

ローマの改宗に関する三つの一般的な誤解……私はこの著作において

後期異教徒モラリストの教えの一部はキリスト教の影響を受けているという説の検討

異教徒の著作に関する初期教会の二つの見解

……異教徒の哲学者とキリスト教
種子的ロゴス
……殉教者ユスティノス（＊
旧約聖書の盗用とされる異教の書物や、ダイモーンの伝承の置き場とされる書物
……私は極端な例を挙げた
しかし、これらの理論は古代ギリシャの論者だけに適用され同時代のモラリストには適用されなかった
……しかしグノーシス派
奇跡の証拠が帝国を改宗させたとする説
これを推測するためには、奇跡を信じる理由を見直す必要がある
……そこでストア派優勢
信仰の急速な衰退
……カトリック教会の少数派
不可能ではない奇跡

……このような不信の理由は奇跡の多くの証拠によって確かめられた奇跡
……また一般に言われている常に教育とともに衰退していくその歴史
……このテーマに関する普通妖精信仰の例
……このような心境未開人の最初の宇宙観—全世界は個別の介入によって支配されている
……未開人が世界を見渡し潜在的フェティシズム
……このような広範な想像力の弱さ　伝説の源—神話
……人間は自分に強い影響奇跡的な物語、ある宇宙理論の自然な表現
……このように社会のある教育がこうした物語を消滅させるのは、人に証拠の厳密さを教えるからである
……第一はあらゆる教育が

また抽象化する力を強めることによって、神話の時代を終わらせるのである……第二は抽象化する力
また法則の支配を確立する自然科学によってそうするのである……第三は自然科学
奇跡を信じることに自然科学が与える三つの影響……このような発見が
雨と疫病に関する神学的観念……しかし、ほとんどの人
神学における帰納的推論の領域……このような問題の中で
奇跡の証明における一般的な誤り……私が書いたことは、神意
ある社会の段階において奇跡的なものに対する素質は強く、ありえなさそうな自然の事実でさえ十分に立証できる以上の証拠を伝説の周囲に蓄積してしまう……奇跡の真実性を調査
占い、魔術、王に癒される病気による例証……異教徒のローマの全期間

ローマ帝国内でのこの問題に対する意見……過去の書物にほとんど
博物学的問題にさえも発揮された極度の軽信……こうした例はキケロ
エジプト哲学の影響による軽信の増大—ピタゴラス学派の奇跡……ローマ帝国の最も啓発的な時代に
異教徒の奇跡に対するキリスト教徒の態度……キリスト教は一連
三世紀のキリスト教徒による歴史的な奇跡の審理の不可能性……ここまで見てきたように、神託
あるいは予言の審理の不可能性—シビュラ文書……証拠による証明がなされる
同時代のキリスト教徒の奇跡—悪魔祓い……ローマ人の改宗者の意見
異教徒には大いに蔑まれた……この挑戦が異教徒の論者
全体として過去と同時代のキリスト教徒の奇跡は異教徒にとってあまり重要ではなかった

……この問題全体をまとめる
古い宗教の崩壊によるキリスト教の前進、そして全体的な信仰への渇望
……その原因はこの時代の
時代の求めに対するキリスト教の特異な適応
……このような動きの中でキリスト教
それにインスパイアされたヒロイズム
……英雄的な熱狂はある種の
ローマ帝国の改宗は容易に説明できる
……ローマ帝国の改宗は
教会が受けた迫害は、それを壊滅させるような性質のものではなかった
迫害には様々な原因がある
……支配者がある宗教的崇拝
ローマの宗教政策の概観
……それは部分的に政治的

キリスト教徒がユダヤ人よりも迫害された理由……キリスト教迫害の最初
迫害の宗教的動機は、災難は神々をないがしろにした結果であるという信念だった……またユダヤ人は周囲の
この信念の歴史……様々な教会の発展を
政治的迫害……この宗教的動機は主に
キリスト教徒は不道徳であるという告発……一般的な告発に加えて
ユダヤ人と異端者に大きく起因する告発……しかし、こうしたことに加えて
女性の改宗がもたらした家庭生活の障害……キリスト教徒に対する反感
宗教的恐怖政治を用いるあらゆるシステムに対するローマ人の反感……私はすでに悪魔祓いの実践
キリスト教徒の異教崇拝に対する不寛容

……キリスト教会に対する敵意
そして信念の多様性に対する不寛容
……そして信教の自由特権
これらの原因からキリスト教徒の迫害は十分に説明できる
……私が簡潔に列挙した事柄

迫害の歴史

ネロによる迫害
……一方すべての論者は完全
ドミティニアヌスによる迫害
……西暦６８年にネロ
アントニヌス朝時代のキリスト教徒の状況
……この迫害が続いた期間
マルクス・アウレリウス以降、キリスト教は大きな政治力を持つようになった
……次に、西暦１８０年にマルクス

マルクス・アウレリウスからデキウスに至るまでの支配者たちのキリスト教に対する態度……キリスト教に示された
デキウスの迫害前夜の教会の状況……三世紀半ばまでの教会
迫害の恐怖……西暦２４９年に勃発
カタコンベ……デキウスの迫害はキリスト
ガッルスとウァレリアヌスの治世のトラブル―ガッリエヌスは容認を宣言する……デキウスの治世は二年
キプリアヌスからデメトリアヌス（＊アフリカ総督）への手紙……聖キプリアヌスは、これら
ディオクレティアヌスの時代まではほとんど平和が続いた。……ガッリエヌスの即位
彼の性格と迫害……しかし、その勝利が達成
ガレリウス

……ガレリウスがこの問題
迫害の終結
……キリスト教徒の大敵
その歴史に関する全体的な考察
……私たちが追跡できる限り

第四章

コンスタンティヌスからシャルルマーニュへ

哲学の道徳的教えと宗教の道徳的教えの違い……前章においてローマ

キリスト教における罪の感覚の道徳的効力……しかし、徳に対する新しい動機

初代教会では一般的ではなかった暗い人間の本性についての見解……しかし、人間の性質の暗い面

懺悔のシステム……このような環境から

キリスト教が無私の熱意を引き出すのに立派な効果を発揮したこと

初期キリスト教徒の偉大な純粋性……しかし、もし人間の本性

何世紀にも渡って裏切られた教会の約束……道徳的な卓越性を説き聞
ビザンツ帝国と西帝国の道徳的状況の一般的なスケッチ……デキウスの迫害以前には
本章で検討するのは、この比較的な失敗の原因である……この時代の主な特徴
キリスト教がもたらした第一の結果は、人命の尊厳の新しい感覚だった……ここに興味深く重要
この感覚は非常に徐々にしか身につかなかった
中絶―嬰児殺し……キリスト教が最初に世界
遺棄された子供たちの世話―捨て子養育院の歴史……この点におけるキリスト教
……これらの措置によって、嬰児殺し

剣闘士ショーの禁止……キリスト教が幼児
死刑への嫌悪……初期のキリスト教徒を剣闘士
迫害への影響……これらのすべては、法の
キリスト教は刑法を緩和しなかった……キリスト教司祭たちが十分
自殺……キリスト教が人間の生命
キリスト教の第二の帰結は普遍的な兄弟愛を教えたことである
奴隷制度に関する法律
教会の規律と礼拝によって主人と奴隷は対等になった……キリスト教が人間の生命の神聖

これらの貢献のうち最初……
隷属的徳の聖別……
道徳的なタイプを隷属的階級……
奴隷解放の動機……
このようにキリスト教は主人……
農奴……
東方では過剰な課税……
捕虜の身代金……
世襲制の奴隷を消滅……
慈善事業―異教徒による貧民救済のための措置……
私が考察しているこのテーマ……
慈善事業に対するキリスト教徒たちの高貴な熱意……
初めて慈善（＊charity……
帝国が倒されたときの彼らの尽力……
このように教会に現れた……
歴史におけるこの運動の不十分な位置づけ……
扱う対象の重要性と劇的……

教会の慈善を賞賛するための二つの留保事項

狂気に関する神学的観念……しかし、私たちがキリスト教
精神病院の歴史……ある種の生来の狂気
無差別の施し―慈善事業の政治経済学……キリスト教の慈善活動の歴史の
無思慮な慈善も寄付者にはしばしば有益なものである……しかし、この分野でも
慈善事業に関する古い見解の修正の歴史……カトリックの野放図な発展
想像力に純粋なイメージを与えるという教会の有益な効果……キリスト教が人間の性格を和
キリスト教の博愛主義的功績のまとめ

私が描いたスケッチは不完全……

禁欲主義の成長

禁欲主義運動の原因……二世紀の論者テルトゥリアヌス

その急速な拡大……禁欲運動の発展は「キリスト教

砂漠の聖人たち

聖人の伝説の一般的特徴……おそらく人類の道徳の歴史

聖人たちの驚くべき苦行……約二世紀にわたって、体がひどく

隠者生活の苦悩と喜び—知識への嫌悪……知的な仕事による慰め
幻覚……このように暮らしている
女性信者と隠者の関係……修道士たちの間に流布
無欲が第一の徳とされた—道徳教育への影響……以上のエピソードと観察
宗教に与えられた陰鬱な色合い……第一に、宗教は次第
自由意志の主張が強くなる……しかし、この時期に禁欲生活
強い肉体的気質に伴う資質の軽視……また同じように正確に説明
家庭の徳の破壊—聖人たちの人間関係における残酷さ……読者が—私がいささか
有力な神学者たちはそれを奨励した

おそらく現存するあらゆる文献……
後の同種の事例
このようなケースに現れた……
極端な神学的敵意
家庭的な愛情の消滅が性格……

市民的な徳の衰退

愛国心とキリスト教の関係の歴史……
キリスト教と愛国心
帝国の崩壊を早めた後者の影響力……
現実的な（＊positive
愛国心に関する古代社会と現代社会との永続的な差異……
教会が蛮族の侵略者に対して
この変化が道徳哲学に及ぼした影響……
第一に、道徳の二大学派

歴史家たちは市民的な徳の重要性を誇張してしまう……第二の観察は、愛国的
ビザンチン帝国の一般的な道徳的状況
モラリストによる些細な事柄の強調……キリスト教時代のローマ帝国
聖職者の堕落
……このような些細な問題
民衆の幼稚性と悪習
……平信徒の領域では
帝国の良い面
……しかし、いくつかの点において
禁欲主義時代の特徴的な卓越性

禁欲主義とは自己犠牲の偉大な学校である……真に偉大な道徳の卓越性
いくつかの伝説の道徳的な美しさ……この理想に魅了されたキリスト
人間と動物のつながりに関する伝説は、後者に対する慈愛をもたらした……私が挙げた数多くの実例
動物の知性に関する異教徒の伝説……異教徒の古代では、このような
動物の法的保護……また動物に対するある種
ローマ帝国における動物への慈愛の痕跡……国々が粗野で好戦的な状態
ピタゴラス派とプルタルコスの教え……このような感覚は、わずか
キリスト教の最初の影響は動物に好ましくないものだった……さて、キリスト教会に目

聖人の生涯における動物にまつわる伝説……ただし、教会の倫理に動物
近代における動物に対する慈愛の進歩……しかし全体として、カトリック
西洋の禁欲運動は実践的な形になった……修道院の最初の形が
教会の蛮族に対する態度—後者の改宗……この最も困難な時期に
蛮族によって混ぜ物をされたキリスト教—古い神々と新しい信仰との対立の伝説……こうしてキリスト教の蛮族

修道院

その魅力の原因……西方の禁欲主義の急速
服従と謙遜に新たな価値が置かれた—この変化の結果

……ある重要な点において隠者
修道院と知的な徳の関係
知的な徳という表現の妥当性
……次に検討する修道院と知的
理論的な真理への愛
……また、第一に知的な徳
理論的に考えるなら、誤りの罪という概念は不合理である
……ここで少し立ち止まって、この
しかし、ある種の誤りは怠惰や故意の不公平によるものである
……第一に、誤りは本当に真理
また、いくらかの誤りは堕落した性質の無意識のバイアスによるものである
……第二に、あらゆる道徳的な性質
懐疑主義の知的進歩に対する影響
……この二つの真実のうち、第一

教会は人格が意見を支配する傾向を常に認識していた……しかし、カトリシズムを科学的
宗教的自由の完全な消滅……実際、キリスト教の創始者

修道院は学問の宝庫だった

古典文学の保存―教会による古典文学の捉え方……修道院の知的功績について
修道院の学問の魅力……しかし修道院時代の文学
修道院は全体として知に好意的でなかった……この種の伝説に非常に
修道院は文学の創造者ではなく、むしろ貯蔵庫だった……相当な期間、ヨーロッパ
神学で発揮された天才を修道院ゆえのものとする誤謬

また、先の誤謬がやや異……
修道士たちの働きに関するその他の誤謬
しかし、このことから中世の……
真理への愛の衰退
カトリック教会が長き……
修道士が犯罪に対する金銭的な補償を重視したこと
修道院制度のもう一つの重要……
金銭を搾取する手段として、来世の苦しみの教義が大いに練り上げられた
実際、宗教的テロリズムは異教徒……
地獄の幻影
修道士たちの努力が、たちまち……
ペトルス・ロンバルドゥス
中世の論者のうち、最も著名……
極端な迷信とテロリズム
天国と地獄の幻視……
煉獄
現代のある著名な中世の弁証者……

西ヨーロッパの道徳的状況

乏しい歴史文献……ここまで述べてきたような宗教的残虐な犯罪……トゥールのグレゴリウスが描七世紀は聖人の時代……しかし、これはある意味で極めてクローヴィスの記事に見るトゥールのグレゴリウスの人物評価の例……歴史家による出来事の捉え方修道院が与えた恩恵……この不幸な時代の道徳的判断布教活動……しかし、いま考察中の時代を後世

軍事的、貴族的精神の芽生え

初期キリスト教徒の軍事的生活に対する反感……ギリシャには古くから、神殿
戦いは神意の特別な領域であるという信仰がそれを聖別した……軍事的職業と宗教
蛮族の軍事的習慣……多くの状況がそれを加速
イスラム教の軍事的勝利……長きにわたってその影響力
軍事的キリスト教に異議を唱える伝説……キリスト教が経験したこの
キリスト教が戦争に及ぼした影響についての考察……初期のキリスト教徒は世界

世俗的地位の聖別

異教徒の帝国は絶えず専制的になっていった……シャルルマーニュ以前の時代

初期のキリスト教徒は現世的問題では受動的な服従を教え、宗教的問題では独立を教えた……キリスト教がこの変化

コンスタンティヌス以降、彼らの政策は彼らの利益によって支配された……しかしコンスタンティヌスの時代

ユリアヌスに対する教会の態度……しかしユリアヌスが玉座

大聖グレゴリウスのフォカスに対する態度……ユリアヌスの治世における

東方聖職者たちはやがて俗世の権力に服従するようになった……君主の権力との関係

西方聖職者の独立—レオとピピンの盟約……八世紀にイサウリア朝のレオーン

受動的服従の教義に対する修道院の影響

権力の神聖性という教義……
「封土」……
第二は、一連の社会的……
シャルルマーニュが民衆の想像力に行使した魅力……
ここまでの観察によって……
王と戦士は偉大さの理想になった……
そして彼が人々の想像力に与えた……
結び……
この大きな変化を目前にして……

第五章

女性の立場

歴史学のこの分野の重要性と困難……ここまで述べてきた一連
未開人の生活における女性……人間がまだ完全な野蛮人
進歩の第一段階は妻の売買の停止だった—持参金の起源……女性の地位向上に向けた
第二段階は一夫一婦制の確立だった……さらに重要なことは一夫一婦制
ギリシャの詩的な時代の女性たち……ギリシャでは一夫一婦制が普通
歴史的時代の女性の地位は低かった—ギリシャ人の感覚を実感することの困難

……ギリシャの歴史的な時代
男女関係の問題の本質
……このような環境の下でモラリスト
ギリシャにおける二つの女性の身分の承認
……これらの対立的な考察
ギリシャ人妻の地位
……ギリシャ人の妻たちはほとんど

遊女

それはアフロディテ信仰ゆえに持ち上げられた
……アフロディテの官能的な信仰
そして美的な熱狂ゆえに
……次に、当時の激しい審美的
そしてギリシャの悪徳である不自然な愛の形ゆえに
……この階級の地位向上

女性に関するギリシャ世論の全体的な評価……ギリシャの生活のこの側面
ローマの世論はもっと純粋だった
フラメンとウェスタ……次にローマ文明に目を
共和制時代の女性の地位……しかし、長い間ローマ人の妻
共和国末期における風俗の崩壊……私は既にポエニ戦争直後
結婚への尻込み……また部分的に悪質な原因
女性の法的解放
離婚の無制限な自由—その結果……このような腐敗の流れの中

結婚の形態の変化は、もう一つ……
ローマに残っていた女性の徳の量……
前章で古代の生活に見られる……
女性の徳を強いるための立法措置……
異教徒帝国の末期には蔓延……
モラリストたちは結婚における義務の相互性を主張し始める……
しかし、モラリストたちはいくつ……
そして売春を非難し始める—純潔の神秘的概念の成長……
私が最も凝縮し、ほとんど……

キリスト教の影響

キリスト教皇帝の法律……
キリスト教はすぐにこの新しい……
懺悔の規律と殉教者の模範の影響……
世俗の法と並んで、教会……

伝説

禁欲的な情熱はこの倫理……
禁欲主義が結婚の品位を大きく下げた
他にも非常に興味深い数多くの……
再婚の不承認—異教徒とキリスト教徒のこのテーマに関する見解の歴史
結婚に関するこうした考え方……
聖職者の独身主義—この教義の歴史と効果
聖職者の独身主義は、結婚……
禁欲主義は女性の人格を非常に低く見るようになった—この点に関するユダヤ人の見解
禁欲主義がもたらしたもう一つの……
女性の所有権に不利な教会法
この教えは女性に関する立法……
蛮族の侵入は教会による道徳の浄化を助けた
純潔の水準を高める努力……
蛮族のヒロインたち
一般にタキトゥスはこの著作……
ガリア王家の一夫多妻制の長期にわたる継続

蛮族の法律……蛮族の道徳的純潔は禁欲運動
結婚の義務は平等であるというキリスト教の強い主張……しかし、こうした驚くべき事実
この教義はその力を失っていない……こうした変化とは別に、新たな
一時的な関係の非難―ローマの内妻たち……両性に課された義務の平等
宗教的な儀式はゆっくりと結婚に不可欠なものになっていった……異教徒帝国の法律やキリスト教
離婚に対する非難……このような動きの中で、異教徒
結婚の強制は廃止された……同時に離婚の絶対的な罪深さ
異宗派間の結婚に対する非難―神学者たちがもたらした家庭内の不幸……これほどまでに厳粛
……神学者たちが理想とする結婚

キリスト教と女性の徳の関係

男性と女性の特性の比較……男女の特色の違い
異教徒の理想は本質的に男性的なものだった—キリスト教の理想との対比……「ギリシャ芸術で最も美しい
原始教会における女性の活躍……宗教的感情の強さにおいて
女性助祭……異端のコリリディア派
未亡人……この他に、一度しか結婚
聖母への敬愛
……あらゆる制定法とは関係なく
宗教改革において女性的タイプはカトリックの側に残った

十六世紀の宗教的大変動……
女子修道院制度……
女子修道院制度の完全な禁止……
結び……
こうした観察をしているうちに……